

## 2-3-10 パラ言語情報の認知における基本周波数の変化の影響

宮城 加奈

小林 聡 (島根大)

語義的に中立な「ええ」という2モーラ語を用い、その前半1モーラに対して後半1モーラの高さを変化させた合成音声(評価対象音声)を19種類作成した。また、評価対象音声の前半1モーラと同じ高さの合成音声(基準音声)を作成した。

44名の被験者は、基準音声に続いて、評価対象音声を聴取し、評価対象音声から受けた印象を評価した。これには24個の印象語を用い、各々5段階で評価した。

その評価結果を集計および比較・検討し、特徴的な結果となった9つの印象語に対して、どのような傾向が見えるかを報告する。9つの印象語は、「落胆」、「驚き」、「高揚」、「疑問」、「強調」、「肯定」、「好意」、「満足」、「冷静」である。「驚き」、「落胆」、「冷静」については顕著な特徴が見られた。特に、「落胆」と「冷静」では、基本周波数の変化の差は大きなものではないにも関わらず、評価には明らかな差が見られた。